2016 年度春学期
授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	現代社会学部共通科目

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

現代社会学部全体として、アクティブ・ラーニングやプロジェクト・ベースト・ラーニングに取り組んでおり、学科独自のインターンシップ導入、地域連携の積極的な推進などを通じ、授業改善に取り組む組織文化が徐々に醸成されつつある。
現代社会学部共通科目は現代社会を学ぶ上での基礎知識・研究方法などを、社会科学および人文科学の各分野から広く提供しており、主に大教室での講義形式で授業が行われる。

アンケート結果をみると、まず DWC10 の選択率は、アクティブ・ラーニングを測る重要な指標であるが、現代社会学部共通科目については、去年に引き続き、「分析力」「思考力」が全学平均を上回る一方、「創造力」、「プレゼンテーション力」「コミュニケーション力」が全学平均より低い傾向にあることが明らかになった。これは当該科目群の特性（社会科学全般に関する一般教養的色彩が強いこと。クラスサイズが平均 83 人とかなり大きいこと。）を勘案すると、ある程度、やむを得ないことである。勿論、専任教員の間で大クラスにおける授業改善は大きなテーマであるという認識は広く共有されており、FD 講習等に対する参加意識も高く、「マナビー」の一層の活用などに一人ひとりが取り組んでいる。
次に設問別集計結果の科目平均をみると、全学平均と比べ明らかに有意な差があるのは「予復習や自主学習に 1 週当たりどれくらい時間をかけましたか」0.44（全学平均 0.67）である。予復習時間については「マナビー」を活用した小テスト等、理想的には「反転学習」による効果が期待できる項目であり、今後、事例の共有化などを学部内でも積極的に進めたい。なお「教員の話は聞き取りやすかったですか」3.60（全学平均 4.11）について否定的である一方、「授業は集中して学べる雰囲気でしたか」が 4.22（全学平均 4.26）は肯定的で、個別データから一部教員のプレゼンテーションの問題が推定されるが、この点については継続的にみてゆきたい。

今後の改善点については各項目で述べたとおりであるが、学部全体としてアクティブ・ラーニングやプロジェクト・ベースト・ラーニングを一層推進する一方、基礎科目が中心で大教室中心の現代社会学部共通科目についても「反転学習」や「マナビー」の活用など、一人ひとりが授業改善に取り組む組織文化を醸成してゆきたい。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。

教育開発支援センター